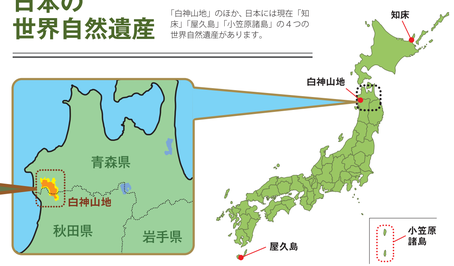
日本の世界自然遺産

「白神山地」のほか、日本には現在「知床」「屋久島」「小笠原諸島」の4つの世界自然遺産があります。



白神山地世界自然遺産

SHIRAKAMISANCHI

WORLD NATURAL HERITAGE

環境省

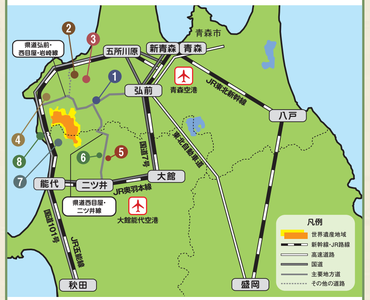
原始日本の森を見る東アジア最大の原生的ブナ林

青森県東南西部と秋田県北西部の県境にまたがる標高200～1,250メートルの山岳地帯「白神山地」。世界自然遺産に登録された地域は、この白神山地の中心部に位置する約1万7,000ヘクタール。都市から遠く離れ、傾斜が急峻な地形のために、ほとんど手つかずのまま原生的なブナ林が残されています。

かつて北日本の山地や丘陵に広く分布していたこのような冷温帯性のブナも、現在はその多くが姿を消し、白神山地は大規模に残る数少ないブナ林の代表的地域となりました。そこには、ブナを中心に500種以上の多種多様な植物が生育し、ツキノワグマやニホンカモシカなどのほ乳類のほか、イヌワシ、クマゲラ等の94種にもおよぶ鳥類など、生物の楽園ともいえる豊かな自然林生態系が育まれています。

これらが「類稀な自然環境」と認められ、1993年白神山地は世界自然遺産に登録されました。

■ 白神山地世界遺産地域へのアクセス ■



西目屋方面
・青森空港より車で約1時間20分（平常時）／青森空港→西目屋村（路線バス約1時間55分）
・JR東北本線「弘前駅」から車で約40分（平常時）／弘前駅→西目屋村（路線バス約50分）

藤里方面
・大館能代空港より車で約30分（平常時）／大館能代空港→藤里町（路線バス約40分）
・JR奥羽本線「二ツ井駅」から車約20分。／二ツ井駅→藤里町（路線バス約30分）

関連機関等

世界自然遺産地域管理者

■環境省東北地方環境事務所
仙台市青葉区本町3丁目2-23仙台第2合同庁舎6F
TEL.022-722-2870（総務課）

◆西目屋自然保護官事務所
西目屋村大字田代字神田61-1　TEL.0172-85-2622

◆藤里自然保護官事務所
藤里町藤琴字里栗63　TEL.0185-79-3001

■林野庁東北森林管理局
秋田市中通5-9-16　TEL.018-836-2014

◆津軽森林管理署
弘前市大字豊田2-2-4　TEL.0172-27-2800

◆米代西部森林管理署
能代市御指南町3-45　TEL.0185-54-5511

■青森県自然保護課
青森市長島1-1-1　TEL.017-734-9257

■秋田県自然保護課
秋田市山王4-1-1　TEL.018-860-1613

自然情報等提供・解説施設

青森県

❶ 白神山地ビジターセンター
西目屋村大字田代字神田61-1　TEL.0172-85-2810

❷ 自然観察館「ハロー白神」
鰺ヶ沢町大字一ッ森町字吉川30　TEL.0173-79-2727

❸ 白神の森遊山道「くろもり館」
鰺ヶ沢町大字深谷町字矢倉山1-26　TEL.0173-79-2009

❹ 十二湖エコ・ミュージアムセンター「湖畔館」
深浦町松神松神山1-3　TEL.0173-77-3113

秋田県

❺ 環境省白神山地世界遺産センター（藤里館）
藤里町藤琴字里栗63　TEL.0185-79-3001

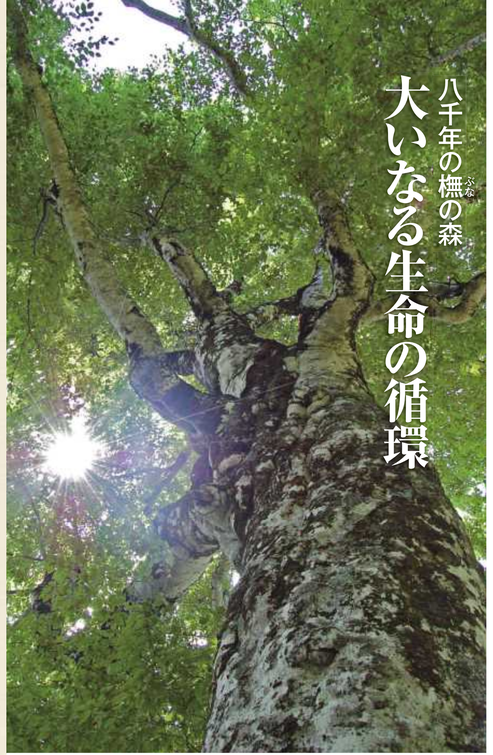
❻ ふるさと自然公園センター
藤里町粕毛字南鹿内（黒波里園地内）　TEL.0185-79-2518

❼ 八森ふるっこランド
八峰町八森字三十苗144-1　TEL.0185-77-3086

❽ あきた白神体験センター
八峰町八森字御所の台53-1　TEL.0185-77-4455

環境省 Ministry of the Environment

企画・発行：環境省　2015年3月発行
制作：株式会社自然教育研究センター　編集協力：nature works office bridge　デザイン：有限会社 カットクラウド
イラスト：田中豊美（ほ乳類）・賀輪義隆（鳥）・大田黒摩利（植物）
写真提供：飛島和弘・宮川圭司・齊藤宗勝・山田兼博
資料：平成魯仙「鰐門山水館」山形県写　青森県立郷土館所蔵／マタギ「大谷石之丞像」　大谷家所蔵
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷物の紙のリサイクルに適した「Aランク」のみ用いて作成しています。
リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷後の紙へのリサイクルができます。



WORLD NATURAL HERITAGE

八千年の橅の森 大いなる生命の循環

人類共通のたからもの——世界遺産とは

国境を越えて世界の人びとが協力し、未来の世代に引き継いでいくべき人類共通のかけがえのない財産、それが「世界遺産」です。1972年にユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」によって、世界各地の文化遺産と自然遺産が登録されています。

「世界自然遺産」に登録されるためには、左の条件のいずれかに当てはまる必要があり、白神山地は「生態系」に該当し登録されました。

自然景観
類まれな自然美・美的価値、優れた自然現象が見られる地域。

地形・地質
生命や地球の歴史の証拠となる地形・地質などが表れている地域。

生態系
他の地域では見られない特徴的な動植物の進化、生物間のつながりが見られる地域。

生物多様性
絶滅が心配される動植物の生息地など、多くの生物が生きていくために必要な環境がある地域。

白神山地世界自然遺産地域とおもなフィールド

核心地域 10,139ha
ほとんど人が手を加えていない、とくにすぐれた自然環境が残る地域。

緩衝地域 6,832ha
核心地域への外部からの影響をやわらげる目的で設けられた地域。

©PASCO/Includes material ©JAXA

おもなフィールド

A くろくまの滝
落差85メートル。日本の滝百選にも数えられる滝は、青森県最大級。駐車場より徒歩約15分。

B 奥赤石ブナ遺伝資源保存林
「白神ライン（県道28号）」沿いに広がるブナ林には1周1時間の散策路が整備されています。

C 高倉森
樹齢400年のブナ「マザーツリー」をはじめとする巨木が茂る森を縦走するトレイル。

D 暗門（あんもん）の滝
白神の魅力を代表するブナの森と、急峻な渓谷の姿が満喫できる片道約90分のトレイル。

E 十二湖
多くの湖が点在する、苔むした森をぬけるトレイル。湖面が青く輝く「青池」が幻想的。

F 岳岱（たけだい）自然観察教育林
樹齢400年のブナの巨木が茂る苔むす森には、バリアフリーのトレイルが整備されています。

G 白神岳
遭難地域全体が見渡せ、山頂からは日本海を望むこともできます。片道約5時間の登山ルート。

H 小岳
本州最低標高ハイマツ群落が広がる山頂からは、白神の雄大な展望が楽しめます。往復約3時間。

I 二ツ森
ブナの森を抜け、白神の山並みと日本海が一望できる山頂までのトレイル。往復約75分のコース。

スニーカーコース　初級者トレッキングコース　熟練者向けコース

千年後の地球へ ── 白神の“たから”を引きつぐために

世界が認めた価値ある自然を守るため、科学的データに基づく保全活動と、その価値を伝える普及啓発活動を行なっています。

「守る」 しなやかに、強く！ ～順応的保全管理

民学官の連携でつくる保全の取り組み

世界遺産の保有国には、景観や環境を保護・保全する義務と責任が課せられています。

現在、白神山地では将来にわたって確実に世界遺産としての価値を保全するために、関係行政機関の連携を図る「地域連絡会議」を設置し、管理計画に基づいた保全管理を行っています。さらに、自然の変化に即した順応的保全管理を行うため、学識経験者などで構成される「科学委員会」を設け、地域のボランティアの協力を得て巡視活動や調査活動を行ない、これらの活動で集まったデータを保全管理に生かしています。

地域連絡会議
環境省・林野庁・青森県・秋田県・関係市町村の連携・調整の場。
・管理計画の策定
・モニタリング計画の策定
……etc

科学委員会
・科学的な知見に基づく助言
大学および各調査・研究機関の学識経験者により構成される委員会

地域のボランティア
・NPO、自然保護団体
・エコツーリズム事業者
・企業CSR
・大学、調査・研究機関
・植樹活動
……etc

科学委員会では、モニタリング調査で新たにわかったことを市民に伝えるシンポジウムなども開催しています。

科学的データが示す白神の「今」と「未来」

世界遺産地域の長期にわたる自然環境の変化を把握するために、ブナ林の森林構造やその動態を把握するためのモニタリング調査、地域内に生息・生育する動植物の調査のほか、気象観測調査や入山者数調査などが継続的に行なわれています。これらの調査で得られるデータは、ブナ林や周辺の自然環境に何らかの変化が見られた場合、原因を探り、対策を講じるための手がかりとなるほか、保全管理を行うための重要な資料となります。

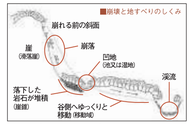
落葉・落枝の量や種子の数などを測定

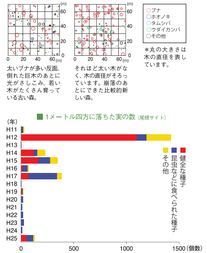
幹回りの成長は１年で１～２ミリほど

現在も隆起している大地の上で再生を続けるブナ林

白神山地は海底に堆積した地層が約200万年前に隆起し、長い時間をかけてブナの森ができ、現在の山岳地帯となりました。そして今も隆起は続いており、早いところでは毎年1.2ミリの隆起を続けています。そのため地盤は安定せず、風雨や地すべりによって崩落をくり返しています。

この地形の変化により古い森が更新されることもあり、白神山地では新旧さまざまなブナ林が見られ、それぞれのステージの森林生態系が観察できます。





生きものをコントロールするブナの知恵

ブナは５～７年に一度大量に実をつけ、その後数年間は実をあまりつけない年が続きます。これはブナが実を食べるネズミや昆虫などの生きものの数を一定量に制限しておいたうえで、数年に一度だけ大量の種子を付けることで多くの子孫を残そうという「ブナの知恵」だといわれています。

「共感」 ゆるやかに、ゆるぎなく ～環境教育・エコツーリズム推進

各種施設で情報の提供をしています

遺産地域周辺には「世界遺産センター」や「ビジターセンター」などの自然学習・情報施設があり、訪れる方がたに自然・文化の解説や登山道などの情報提供を行なっています。

環境省白神山地世界遺産センター 藤里館

自然体験プログラムで伝える多彩な白神の魅力

貴重な自然環境を将来にわたって保存していくためには、地域の自然や、先人たちが自然との共生のなかで育んだ文化を理解し、共感することが大切です。

白神山地の各施設では、自然保護や環境保全の大切さを学ぶための自然体験活動のほか、環境省自然保護官が小中学校で実施している「出前授業」など、自然や地域への新たな気づきを提供する環境教育を行なっています。

キャンプやカヌーなどの自然体験活動を行う環境省「子どもパークレンジャー」

初心者から熟練者まで多様な登山ルート

保全に責任をもつ観光「エコツーリズム」を推進し、主要ポイントには地域の動植物の説明や、世界遺産地域の意義・目的を案内する解説板などの設置を行なっています。

そして、登山初心者から熟練者まで、さまざまな方に世界に誇る自然を体験していただき、保全への理解と協力を得るために、多様な登山ルートが設定されています。

核心地域内指定ルートは登山道の整備もほとんど行っていないため、尾根や沢などを歩きます。（青森県側）

！ 入山ルールをお守りください。
白神山地には貴重な動植物が数多く生息しています。生態系維持と自然保護のため、ルールとマナーを守り、「自己責任」で入山してください。また、核心地域への入山には事前に「届出書」の提出が必要です。詳しくは白神山地世界遺産センターのWEBサイト http://tohokuenv.go.jp/nature/shirakami/ をご確認ください。

白神山地世界自然遺産保全へのあゆみ

2000万年～1000万年前	200万年前	8000年前	3000年前	1650年頃	1740年～	1960年～	1978年	1980年頃	1982年	1990年	1992年	1993年	1995年	1997年	1998年	2010年	2011年	2013年
現在の白神山地を覆う地層が海底に堆積する	白神山地周辺が隆起を始める	白神山地に安定したブナ林がつくられる	西目屋村に縄文集落ができる	尾太鉱山操業開始	周辺地域で鉱山跡発見され、銅・鉛などが採掘される	地域の人たちが、狩猟、炭焼き、山菜きのこ採りなどで森を利用。マタギ文化の発展	白神山地を横切る青秋林道建設による伐採	反対運動が活発化	青秋林道工事着工	林野庁が白神山地を「森林生態系保護地域」に設定	青秋林道建設計画中止	環境庁が白神山地を「国指定鳥獣保護区」に指定	白神山地が屋久島とともに世界遺産に登録される	白神山地世界遺産地域管理計画策定	白神山地世界遺産地域連絡会議設立	白神山地世界遺産センター「ビジターセンター」開館	白神山地世界遺産地域学術委員会設定	白神山地世界遺産推進協議会発足	白神山地世界遺産地域管理計画を改定

世界が認めたブナ林の豊かな生態系

白神山地のブナ林の誕生は今から約８０００年前、縄文時代の草創期にあたります。この時代、日本各地で人びとが定住をはじめ、縄目模様で知られる土器や研磨石器の技術を磨き、長く安定した縄文文化を育んでいきました。それは、ブナの森の豊かな恵みに支えられたものだといわれます。

しかし、ブナは腐りやすく乾燥すると曲がりが出ることから建材や生活用材に不向きとされ、長い間その価値は忘れられてきました。ブナの森が水を蓄え、豊かな生態系を育むと注目されたのはごく近年。木偏に「無」と書くその木が、あふれるばかりの命を生む環境を創っていることが、今世界の注目を集めています。

生きている森 ── 今も続く世代更新

1993年に始めた核心地域内のモニタリング調査によって、白神山地のブナ林は安定した極相林ではなく、今も斜面の崩落や倒木により更新が続く、「多様なステージの存在する森」であることがわかりました。

ブナの寿命は約300年。巨木が倒れると、光と場所を得た種子が一斉に発芽し、そこに新たなステージの生態系が生まれます。そして倒れた老木は菌類や微生物、微小な土壌生物によって分解され、栄養豊かな土となり、次の世代を養っていくのです。

日本最大のキツツキ、クマゲラ

イヌワシ

オコジョ

ツキノワグマ

ニホンザル

新緑や実りが支える多くの命

脂肪分が多く栄養価の高いブナの実は、ツキノワグマやニホンザルをはじめ、アカネズミなどの小型は乳類、鳥類、昆虫などさまざまな動物たちの食料となっています。また、新緑の柔らかな葉も、昆虫だけでなく多くの動物が食べに集まる森の恵みです。さらにブナは、それら新緑や実を食べて育つ生きものを捕らえて暮らす、多くの肉食性の動物の命を養っています。

川から海へ ── 水めぐる森

ブナの森に降った雨はきめの細かい植物を潤し、そして落葉や倒木などがつくった厚い土の層をゆっくりと通り、川から海へ、森の栄養を運んでいきます。

日本海で水揚げされるハタハタ

海の生物の豊かさは、沿岸の植物プランクトンの量に大きく左右されます。この植物プランクトンの増殖を助けるのが、森から川を伝って運ばれる有機物や栄養分です。そしてさらに再び豊となり、森へと還ります。

川を遡って子育てをする珍しい海鳥、シノリガモ

「無駄」が養う豊かな大地

若木に成長できない膨大な数の実生は、一見無駄に見えますが、これらの実生は草食性の動物や昆虫などの食料となり、森林生態系の維持に大きな役割を果たしています。落葉や倒木もまた、豊潤な土をつくり、多様な植物を育みます。さらに分解者である土壌生物を豊かにし、それらが肉食性の動物の食料になるのです。

希少植物
アオモリマンテマ

ニホンカモシカ

人もまた、生態系の環のなかで暮らす

白神山地の森は手つかずの原生林ではなく、古くから近隣の人びとが山菜やきのこを採り、薪を集め、炭焼き や伝統的狩猟を行なってきた場所です。しかし山里の民は自然のバランスを壊すことなく、その恵みを得、ブナの森の“生命の環”のなかで自然と共生した暮らしをつくってきました。

江戸時代末期、雪解け水で山から切り出した材木を流す「流し木」平尾魯仙「陸門山水図」（山形県泉写）より

森の奥深くに留まり、自然を観ぶ、狩を行ったマタギ。